

令和2年度第1回広島市立図書館協議会 会議要旨

日 時	令和2年9月11日（金） 午前10時00分～午前11時45分		
場 所	中央図書館 3階セミナー室		
公開・非公開の別	公 開	傍聴人	なし
出席者	委 員：林委員、池田委員、沖元委員、庄委員、筒井委員、大上委員、新田委員 事務局：橋場市民局次長、手島生涯学習課長、塩満中央図書館長、福島中央図書館副館長、 野口中央図書館事業課長、原田こども図書館長、中谷指導第一課長		

議 事（会議要旨）

1 開会

2 議事

(1) 委員長及び副委員長の選任について

委員長 林 孝 委員
副委員長 竹澤 寿幸 委員

(2) 図書館事業について

<説明>

資料1・資料2に沿って中央図書館副館長が、資料3に沿って生涯学習課長が説明

<質疑等>

（池田委員）

資料を見て、努力されているのは伝わった。そのうえで何点か質問させていただく。

西区図書館のエコバッグの配布について、環境問題は子供たちも関心があるが、配布の際は環境とエコバッグの関係をどのようにされているのか。

続いて、こども図書館の図書セットの利用状況の数字がよくわからなかったので、説明していただきたい。また、資料に小学生新聞とあるが、どんな企画かわからない。単に並べるだけでなく、子供に何を学んでもらうか明確にしてほしい。

次に、アンケートについて、レファレンスサービスの数字が10%も上がっているがそれはどうしてか。何か伸びた要因があるのか。

最後に、区の図書館で開館20周年とか30周年の記念事業の記載があるが、予算がついていないものがある。お金を使ってほしいというわけではないが、魅力ある事業が展開されることを期待している。

（中央図書館副館長）

西区図書館のエコバッグについては、後日回答させていただきたい。

各区図書館において特色を生かした展示を行っている。環境問題については特に意識が高く、その中の一環でイベントをしたものと認識しているが、それについても詳細はまた後日回答させていただきたい。

資料2で予算額の空欄がある部分は、館内資料の展示、あるいは職員、ボランティアで実施する点で空白になっている。予算額が書いてあるのは、例えば講演会等の講師謝礼金や委託等が必要な事業の場合に記載しており、職員独自で、あるいは館内資料で行うものについては、予算0で対応している。

(こども図書館長)

40周年を迎える年になるので、それを記念して毎年5月1日の新聞を並べて、子供たちが生まれた頃、あるいは保護者の方の生まれた頃の新聞を見て楽しんでいただくことを趣旨として行うものである。

図書セットの貸出について、昨年は68件だった。

(中央図書館事業課長)

アンケートでレファレンスサービスの項目が伸びた要因について、はっきりとはわからない。職員は日々業務の中で、「わからないことがあれば気軽にお尋ねください」とレファレンスサービスについて利用していただけるような働きかけをしている。また、機会があれば広報に努めている。

(新田委員)

今年度は新型コロナウイルスの影響で普段とは違った運営を迫られている。

図書館のことで言えば、電子図書がこのコロナ禍が始まるまでは、ずっと横ばいだったが、5月から全国で8.5倍の利用率になっている。広島県内でも広島県立図書館が、電子図書の導入をしている。あと東広島市、府中市、それから来年1月から呉市が導入する。広島市として、電子図書に関する構想があるのならば聞いてみたい。

(生涯学習課長)

委員のお話のとおり、電子図書については、国から新型コロナウイルス地方創生臨時交付金の支給があり、各自治体はその交付金を使って、おそらくテスト的なかたちで実施していると思う。広島市としても電子図書を考えていきたいと思っているが、経費の問題や著作権の問題がある。その中で、コロナ禍というだけで実施するのではなく、抜本的に今後どういうかたちにしていくか考えてまいりたい。その際には、図書館のICT化ということで、この図書館協議会の中で、議論いただければと考えている。時期的にいつからというのは申し上げられないが、私的には近いうちにというように考えている。

(林委員長)

議論を聞いていて気付いたが、事業内容について、何を狙っているのか見えにくいところがあると感じた。新規の事業を提供するときは、社会教育施設としての図書館として、地域に密着した図書館として目指すものがあつたうえで実施していると思うので、それが表記されると良いと感じた。今後ともご検討いただければと思う。

(3) 子どもの読書活動推進計画の推進状況について

<説明>

資料4・資料5・資料6に沿って生涯学習課長が説明

<質疑等>

(池田委員)

資料4について、計画の目的に「ことばの力」と書いてある。今に始まったことではないが、読書離れと言われ、今回のコロナ禍の中で、学校にも行けない、図書館も閉鎖されている時期があつた。先日、厚労省のHPでOECDが世界的に実施している子供の読解力等の調査で日本は、ここ最近かなり数字が落ちているのを見た。そこで、教育関係者の方に聞きたい。私たちは、読む力がないと計算、応用力、それから新しく何かを見ていくという力がすごく乏しくなるので、

そういう部分に今まで日本は力を入れてきたと思うが、この「ことばの力」についてどう考えているか。また、中学校の数値を見て、図書館との関係がどのようになっているのか、中学校教育研究会ではどのような話をされているのか聞きたい。

(指導第一課長)

本市だけでなく、全国的に行っている教育の流れをお話させていただきたい。来年度から学習指導要領が新しくなり、その中で重点としておかれているのは、言語活動の充実である。確かに基礎的な知識、技能を習得していくことも大事だが、自分で資料を見ながら、自分に必要な情報を取り出し、さらにそれを再構築して自分の言葉で表現していく、それを他者と交流していくような活動の充実が叫ばれている。本市の学校の中でもそういった活動の充実について、学校教育目標の中に掲げて取り組んでいる学校も多くあり、全国的に取り組んでいかなければならない大きな課題となっている。

(筒井委員)

中学校が図書館とどういう連携をとっているかという、なかなか実情は十分な連携が取れていない。中学校の授業確保という面で余裕がもてないという現状がある。学校にも図書館があるが、学校の一日のスケジュールから考えると、ほとんどの学校がお昼休みのわずか15分程度の開館時間の中で、子供たちが利用している状況である。放課後は部活動等があるので、放課後に十分な時間をとってというのも難しい現状がある。毎年一回、こども図書館の協力を得て、教員にワークショップ形式で、ポップづくりの方法や本の修復方法等を教えてもらい、学校図書館が子供たちにとって魅力のある場所になるよう図書館の環境づくりに取り組んでいる。その際は、いかに学校図書館に蔵書してある本を有効的に使うか各学校で情報交換しながら、研究をしているところだが、まだまだ十分なものにはなっていない。先ほど読解力の話が出たが、中学校でも情報を取り出す力やコミュニケーション能力の向上として、授業で教員が一方的に説明をするのではなく、子供たちがペアやグループで自分の考えを自分の言葉で伝えるという学習活動を取り入れている。子供たちの語彙力やコミュニケーション能力が十分ではないと、人間関係がうまくいかずトラブルが起きる。いかに子供たちが自分の言葉で相手に伝える能力を高めていくかを、子供たちの話し合い活動を取り入れた授業づくりをしていき、それに合わせて教科書だけではなく、さまざまな図書をどう利用して、授業の中で生かせるかを課題としてこれから取り組んでいこうと思っているが、少しずつ、いろんな情報交換をしていく中で進めていきたいと考えている。

(沖元委員)

今学校図書館の活用方法の話があったが、小学校における学校図書館の役割には、そこで知識を得たり、調べものをしたりする情報センターの役割と居心地がよくて、心のよりどころにするといった読書センターの役割があるのではないかと思う。そこで、今の学校図書館の蔵書がどの程度学習で使われるものなのかを再検討して、蔵書の確認をし、使える蔵書に変えていくことが大切だと思う。それから、今子供たちは学校の中でストレスを感じていると思うので、息を抜く場所として図書館が大切な役割を果たしてほしい。東京足立区でIKEAが学校図書館の空間を作るという事例を見た。その例では、図書館が明るい雰囲気になっていたのも、そういう雰囲気が大事なのではないかと思う。

(林委員長)

学校図書館の充実という話があったが、学校図書館の中で育ってくる子供たちが、公立図書館を利用するようにならなければいけないと常々思う。学校における重点施策の中には「本を読む

力を育てる指導の充実」という言葉がある。今の議論を聞いていると本を読む力が育っていないなければならない。本を読む力が育つ指導を転換していかなければならないのではないかな。与えるのではなく、自らつかんでいくという視点で捉えなおすのも一つの手ではないかと思う。

(庄委員)

私立の学校との連携はあるか聞きたい。

また、学校との連携の数字が伸びていないようにも思えるが、どうか。図書館から市の学校へのアプローチは行っているか。

(指導第一課長)

まず、沖元委員のご発言について、学校図書館のあり様について情報センターと読書センターの役割があるとの意見についてはその通りだと思う。教育委員会としても学校図書館の整備は重点目標に掲げている。今は一人の学校司書が複数の学校を担当しているが、そうすると取組状況の違いが見えてくる。図書館司書が集まっての研修会やいかに学校図書館を充実させていくかという研修会をこの中央図書館の力を借りながら行っている。学校図書館、学校司書については今後も力を入れていきたい。

蔵書の整理については、公立の小中学校はほぼ同じ蔵書数だが、今後は、子供が積極的に手に取らない古い本については廃棄をしていき、毎年为学校図書費で子供の興味関心のあるものを加えていくつもりである。来年度、学校図書館の研究大会があるので、学校でいかに図書を活用していくかを研究していく。

庄委員のご質問について、私立の学校への支援については、広島県教育委員会が所管している。

(4) 広島市立西区図書館命名権取得及び呼称の決定について

資料7に沿って生涯学習課長が報告

(5) その他

○ 第9次地方分権一括法の公布に伴う本市の対応について

参考資料2に沿って生涯学習課長が概要を報告

○ 中央公園の今後の活用に係る基本方針の策定について

参考資料3に沿って生涯学習課長が概要を報告

3 閉会

(林委員長)

これをもって、本日の会議を閉会とする。